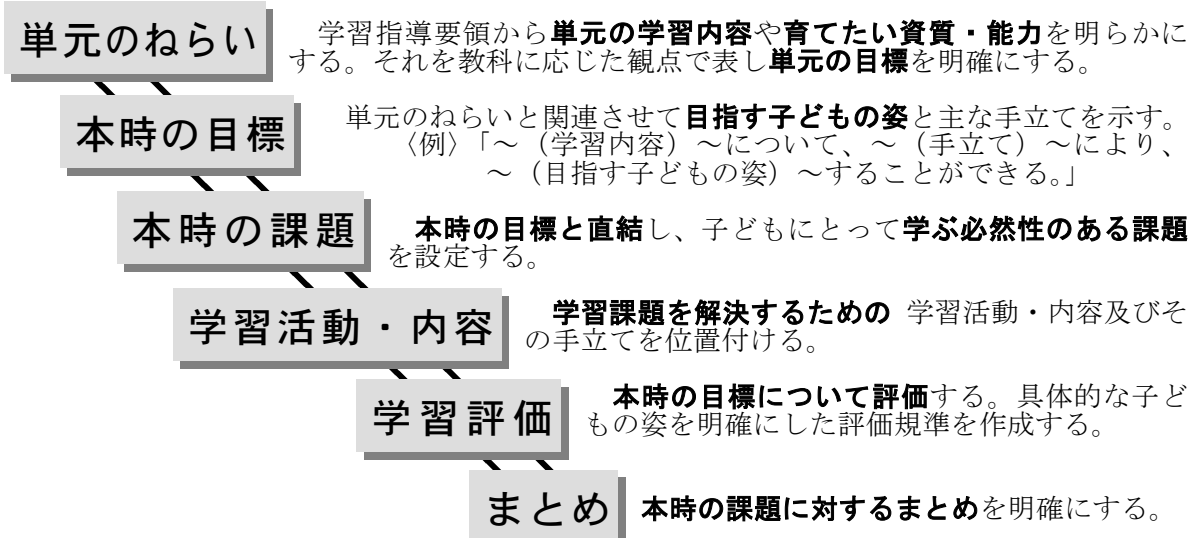


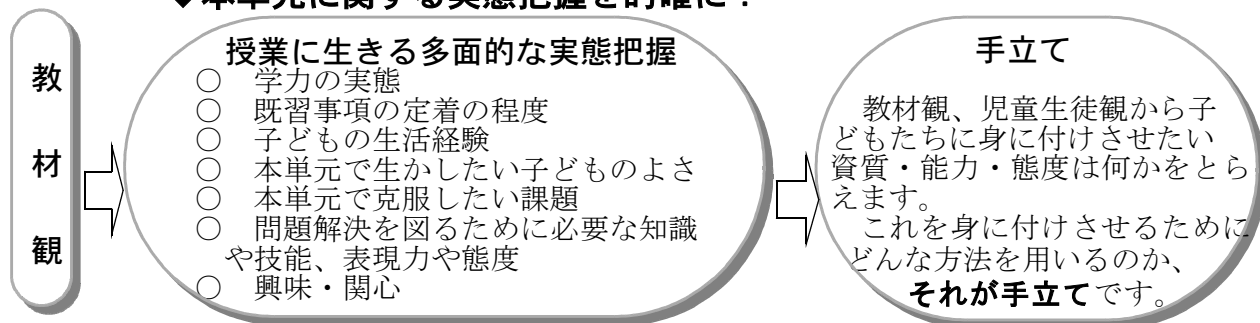
# ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、 目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計

## ☆指導構想の整合性は？



## ☆本時の目指す姿を具現するための手立てとは？

### ◆本単元に関する実態把握を的確に！



### <手立てが必要な場面>

<導入>

A 学習課題の設定

B 課題解決の見通し


<展開>

C 課題解決能力を伸ばす個に応じた働きかけ  
 (自力解決)

D 思考の「共有」と「吟味」  
 (学び合い)

<終末>

E 学習を振り返る活動



### <手立ての例>

<導入>

- 意欲を高める課題設定
- A 具体物(実物)の活用
- A 実演の提示
- A ICTの活用
- 既習内容を活用した課題設定
- A 体験活動の活用(見学や取材活動等)
- A 統計、写真等の資料の活用
- A 既習の振り返りから未習へ
- 課題解決の見通し
- B 既習内容や既有経験の活用
- B 答えの見当

<展開>

- C 座席表等を活用した見取り
- C つまずきに応じた支援
- CD 考えの交流を図る学習形態(ペア、小グループ等)
- D 子どもの思考を促す発問
- D 子どもの考えや発言をつなぐ教師のコーディネート
- D 子どもの発言を生かした構造的な板書の活用

<終末>

- E 目標の達成状況をみる適用問題
- E キーワードや板書を活用した本時のまとめ
- E 自己評価表の活用や視点を明確にした学習感想の記入

**【手立ての基本型】**

～(具体的手立て)～  
により

～(目指す姿)～  
ようにする

(P.6参照)

## 整合性と手立て…授業案のここがポイント！

☆ 授業案において、単元のねらいからまとめまでの整合性が図られていて、具体的で明確な手立てが示されていること、それがポイントです。

### ＜整合性を見るポイント＞（授業案例）

1 単元名 「面積のはかり方と表し方」小4算数科

2 単元について

(1) 教材観  
(2) 児童観  
(3) 指導観

3 単元の目標

○ …… 【関心・意欲・態度】

○ 面積は、量や乗法の学習を基に単位の何個分で数値化して表すことや、**辺の長さを用いて計算で求められることを考え、とらえることができる。**

○ …… 【数学的な考え方】  
【知識・理解】

4 指導計画と評価規準（総時数11時間）

次	時	主な学習活動	評価規準
	5	複合図形を分けたり付け足したりして長方形の面積の公式を活用して複合図形の面積を求める。	<b>長方形の面積の公式を活用できるように、複合図形の面積の求め方を考えている。（考え方）</b>

5 本時の目標

**複合図形の面積を求めることについて、長方形の面積の公式を活用し、図形を分割したり、付け足したりすることにより面積の求め方を考えることができる。**

6 指導過程

学習活動・内容	時	手立ての具体例 ○よい●悪い
1 既習を振り返り、本時の課題をつかむ。 (1) 前時の学習内容を振り返る。 (2) 課題をとらえる。		A○前時の学習を振り返り、その後未習の問題を提示することにより疑問をもたせ、本時の課題をとらえることができるようにする。
<b>どうすれば面積を求めることができるだろうか。</b>		
2 解決の見通しをもつ。		B○使えそうな既習事項を振り返り正方形、長方形をもとに考えさせることにより、解決の見通しをもつことができるようにする。
3 自分の考えた方法で面積を求める。 ・3つの長方形に分ける方法 ・横に2つに分ける方法 ・縦に2つに分ける方法 ・大きい長方形から小さい長方形を引く方法		C○自力解決できない児童を集めて小黒板を使って分割する方法のヒントを与えることにより、自力解決ができるようにする。 C○面積の加減計算で解決できた児童に対しては、もう一つ同じ複合図形を与えることにより、倍積変形による考え方で解決できるようにする。
4 全体で共有・吟味する。		D●子どもたちの考えた方法を画用紙に書かせて黒板にはり、それぞれの考え方を共有・吟味する。
5 本時を振り返る活動をする。 (1) 学習内容をまとめる。		E○板書のキーワードをもとに学習内容を振り返らせ、自分の言葉でまとめをさせることにより、学んだ実感をもつことができるようにする。
<b>分けたり付け足したりして長方形にすれば、公式を使って面積を求めることができる。</b>		
(2) 適用・習熟問題に取り組む。 (※ 適用をまとめの前にもある。)		E●学習感想を書かせて本時を振り返る。

児童の実態として、「算数が好きな児童が○人」とか、「進んで発表できない児童が多い」など、教科に対する情意面や授業の全般的な実態等だけにとどまっていることはないでしょうか？ 本単元で生かしたい子どものよさや既習の定着の程度等をつかんでいるからこそ、指導観で具体的な手立てを明らかにすることができます。

P5を参考にし、具体的な手立てを「～により…ようにする」の形で書きます。

自力解決のために既習のどんな考え方をを使うのかが分かります。

つまづいている子どもがどのように課題解決を図るのかが分かります。

力をさらに伸ばす発展的な考えにつながる手立てとなっています。

多様な考えがあることに気付かせるために、どのように比較検討して課題に迫るのか、具体的にしたい。

「自分の考えと比べてどう思ったか」等、どのような感想を書かせるのかの視点がほしい。